

三木昂史 (MIKI, Takashi)

主任研究員 博士 (農学)

- 1988 大阪府高槻生まれ
- 2015 神戸大学大学院農学研究科 修了
- 2015 農研機構農村工学研究所採用
- 2026 東京農工連合大学 博士 (農学) 授与
- 同年 資源利用研究領域資源循環活用グループ



研究者の横顔

<入構から 11 年経過して>

2016 年以来 10 年ぶり 2 回目の紹介となります。入構以来 11 年間、「資源」に関する研究領域に所属でき、小水力発電や流水熱利用、ソーラーポンドなどの再生可能エネルギーに関する研究に取り組んできました。浸透破壊などの土質工学に関する研究に取り組んでいた大学時代とは異なる分野ではありましたが、職場の上司、同僚、大学関係者の皆さまのおかげで 2026 年 3 月には「農業用水路におけるヒートポンプシステムによる流水熱利用に関する研究」というテーマで博士号をいただくことができました。この場を借りて関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。引き続き、再生可能エネルギーや農業や農村における未利用資源に関する研究に取り組んでいきます。

<趣味の居合道>

今回ご紹介する趣味は居合道についてご説明します。居合道は武道の一つで、日本刀の操法に由来するものです。居合道には流派ごとに定められた技があり、その技を型として日本刀 (真剣または模擬刀) で演武します。その技の中では、座った状態または、立った状態から抜刀し、実在しない仮想敵を、実在するかのように想定して、斬りつけ (型に応じた斬り方)、倒した仮想敵に残心を示しつつ血振りをし、納刀するまでが一連の技の流れです。技ごとに場面設定や敵の状況などが定められており、理合にかなった技の追求をしなければなりません。技ごとに敵の存在を明確に想定し、理合・間合い・残心を一貫させた演武が求められます。これがとても難しく、居合道を始めて 20 年以上になりますが、自分が演武している姿を客観的に見られた時に、理合にかなうようになかなかできてないようです。師匠には、「年齢はいくつになっても日々、修行しなければならない」とご指導いただくのですが、まさにその通りだと思います。これは研究でも同じかもしれません。

最近では演武する機会が増え、京都府や新潟県、静岡県など全国で開催される演武大会や居合道大会に、年間を通して遠征しています。演武では、毎回とても緊張するので、なかなか稽古通りに技ができないことが課題です。理合にかなった技や周囲を惹きつけるような技を抜けるよう、これからも精進していく次第です。



図 演武している様子